

FUJIFILM

Value from Innovation



第71回 国立病院総合医学会

ランチオンセミナー 1

地域医療連携推進による 病院経営の向上

地域包括ケアを支える急性期病院と
かかりつけ医・薬局・介護施設との連携

日時

2017年 11月10日(金) 13:00~14:00

会場

第4会場 (ホール棟5階 54会議室) サポートホール高松

演者

関塚 永一 先生

国立病院機構埼玉病院
名誉院長

共催：第71回国立病院総合医学会／富士フイルムメディカル株式会社

テーマ

地域医療連携推進による病院経営の向上

—地域包括ケアを支える急性期病院とかかりつけ医・薬局・介護施設との連携—

国立病院機構埼玉病院 名誉院長 **関塚 永一 先生**

現在、2025年問題に向けて都市医師会や自治体を中心となって地域包括ケアシステムの確立を目指しており、ICTの活用に期待が集まっている。医療連携におけるICTの活用は不幸にも、行政からの高額な地域医療再生基金などの補助金に頼り、採算性を度外視してきたという経緯があるが、その中で予約返書システムから発展した地域医療連携サービスカルナコネクト(富士フイルム社)は、検査・診療予約や、その結果を診療情報提供書や検査・画像情報として提供するなど、実収益に結びつく仕組みとなっていることから、高い採算性を維持してきた。

カルナコネクトでは、MRIやマルチスライスCT、超音波、内視鏡などの検査や外来予約を、24時間365日いつでも簡単に予約でき、結果所見の参照もできる。さらにモバイル端末(iPad)を利用して各種予約もできる。当院ではカルナコネクトの活用もあり、紹介率82%、逆紹介率162%という驚異的な数字を実現した。

当院は2013年10月に和光市と協定を結び、カルナコネクトを地域医療連携のシステムにとどまらず、介護・福祉の分野にも応用することで、地域包括ケアシステムのICT化推進を開始した。実際に和光市や地域包括支援センター、居宅介護支援事業者とも協定を結び、ケアプラン、フェースシート、介護用診療情報提供書(書式12)、退院時サマリーや看護サマリー、そして主治医意見書など文書の共有化を実現している。今年度は手始めに、かかりつけ薬局や訪問看護・介護施設と連携し、残薬管理や患者情報の共有化を試行しているところである。本システムでは、患者さんとそのご家族を中心に、予防・医療・介護・福祉に関係した施設すべてが、責任ある情報のやりとりを基本に、ICTを介した信頼のネットワークで結ぶことで、理想の地域包括ケアの確立に向けて一步一步前進している。

本セミナーでは、これまで当院で行ってきた病院改革、地域医療への貢献、病院経営改善等のノウハウの一部について紹介したいと考えている。